クリーン四国

No.1212
2021年
3月号

令和2年度 四国国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました

【詳細は2頁】

「祖谷のかずら橋」架け替え

徳島県三好市西祖谷山村にある「祖谷のかずら橋」は3年ごとに架け替え作業が行われており、約6.5トンの「シラクチカズラ」が資材として必要となり、国有林から提供されている。

（撮影者：徳島森林管理署　丸田泰史）

目　次

・令和２年度　四国国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました …… 2
・各署等のたより …… 4
・四国森林管理局に勤務して …… 9
・【現場からの便り】恵まれた雨量と貴重な遺産 …… 10

四国山の日

四国森林管理局
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ 088－821－2052
ＦＡＸ 088－821－4834
ＨＰ http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

令和2年度 四国国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました

〈局企画調整課〉

2月5日、「令和2年度四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」（以下「連絡協議会」という）を開催しました。本協議会は、昨年10月に四国6地区で開催した「国有林野等所在市町村長有志協議会」における、各市町村から出された意見・要望等を各地区の代表世話人（徳島地区：黒川征一三好市長、香川地区：栗田隆義まんのう町長、愛媛地区：河野忠康久万高原町長、四万十地区：池田三男津野町長、嶺北地区：和田知士大川村長、高知中部地区：法光院晶一香美市長、安芸地区：山﨑出馬路村長）から報告をいただき、総括的に議論するという場となります。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、各代表世話人・林野庁・四国森林管理局・各森林管理署（所）をWebで繋いで開催しました。なお、円滑な議事進行とするために、各代表世話人と各署長等が同席する形で開催をしました。

香美市長　進行の様子

開催に先立ち、役員改選を行い、引き続き、会長を法光院香美市長に、副会長を黒川三好市長に担っていただくことを満場一致で承認しました。

その後、林野庁の担当者から、予算概算決定の概要や森林経営管理制度の取組、森林整備・治山事業等について情報提供がありました。

各地区の代表世話人から、地域での取組の事例紹介や意見等がありましたのでその一部を紹介します。

徳島地区の代表世話人からは、

○森林経営管理制度を動かしていくために、各市町村が様々な工夫を行っているところであるが、各市町村とも共通して人材育成が大きな課題である。

○今年度の森林環境譲与税を基金に積み立てたが、来年度はしっかりと有効的に使い、結果を残していきたい。

香川地区の代表世話人からは、

○頻発化するナラ枯れ被害調査には、ドローンが有効と考えており、これら新技術の活用への助成を行ってほしい。

○森林空間の活用による町外からの誘客を進めており、国有林内の遊歩道等の活用についても協力をお願いしたい。

愛媛地区の代表世話人からは、

○「間伐特措法」、「美しい森づくり基盤整備交付金」の10年間延長が閣議決定され、大変感謝している。

○担い手確保が急務であり、先進的な自治体の事例を参考としていきたい。

四万十地区の代表世話人からは、

○森林経営管理制度の推進に向け

て、対応できる人材の確保に加え、地籍調査を進めていくことが急務である。

○針葉樹から広葉樹への転換を行うことで「三原米の里」としての森林づくりに取り組んでいる。

嶺北地区の代表世話人からは、

○新型コロナウイルス感染症の影響による住宅着工数の減少などにより、木材共販所に木材が滞留した際、素材生産活動が停止しないよう対策を講じていく必要がある。

○本年度から、3名の地域おこし協力隊を雇用し、森林環境譲与税を活用した自伐型林家の育成や林業機械等を支援する取組を実施している。

○不在村地主が多いことから、相続に係る手続きをもっと簡単にして欲しい。

Web 会議（参加者状況）の様子

安芸地区の代表世話人からは、

○新型コロナウイルス感染症の影響により、観光業の落ち込みと共に木材加工品の売上げが減少した。

○林業事業体の担い手育成として、指導育成費及び研修生費用、インターンシップへの補助等を行うことで、林業事業体への就業者増加に繋がっている。

○災害等で県道等が不通となった際、村から隣接市へ抜ける国有林を含む林道が命の道となっていることから、整備をお願いしたい。

高知中部地区の代表世話人からは、

○森林経営管理制度・森林環境譲与税については、国民の皆さんに広く理解してもらうことが必要であり、国から積極的な情報発信をしてもらいたい。

○航空レーザー測量のデータを基に、森林資源解析ソフトを開発中である。

等の発言がされました。

Web 会議（全体）の様子

その後、林野庁と四国森林管理局から、以下の情報を提供しました。

①人材育成に向けた市町村向けの研修や現地検討会、市町村間の人事交流。

②森林経営管理制度に関する全国の取組事例の紹介。

③災害に強い山づくりとして、流れ木対策としての危険木除去や林道の迂回路としての活用。これらの情報を提供し、議論を深めました。

今回、四国の各市町村から出された意見や要望については、議長（香美市長）により、林野庁・四国森林管理局に向け、議長とりまとめが行われ、各代表世話人全体で確認がされました。

本年度は、初のWebによる開催ではありましたが、各参加者から、多くの意見等をいただくとともに、様々な情報共有を図ることができました。四国森林管理局・各森林管理署（所）において、今後も市町村のニーズに応じた支援を積極的に実施してまいりたいと考えております。

各署等のたより

祖谷のかずら橋架け替え
～原料のシラクチカズラを提供～

〈徳島森林管理署〉

四国の秘境と言われる徳島県三好市西祖谷山村の「祖谷のかずら橋」は木の文化の象徴であり、国指定重要有形民俗文化財に指定されている、全長45ｍ、幅２ｍ、高さ15ｍの吊り橋です。

この「祖谷のかずら橋」は、山口県岩国市の「錦帯橋」や山梨県大月市の「猿橋」とともに、日本三大奇橋の一つともいわれており、年間30万人を超える観光客が訪れる三好市の重要な観光資源となっています。

「祖谷のかずら橋」は３年ごとに架け替えが行われており、架け替えには、資材として山間部に自生している丈夫で腐りにくい「シラクチカズラ」が、約６トン使用されています。

架け替え資材となるシラクチカズラは、直径３㎝～４㎝が適しており、長さ10ｍ程度のカズラが約６００本使用されます。

国有林から提供した資材（シラクチカズラ）

資材として利用出来るまでに成長するには約20年から30年かかるため、近隣で採取出来る資材は年々減少しており、平成10年頃から徳島森林管理署管内の国有林で供給してきましたが、道路近くで採取できる箇所が少なくなったため、近年は近隣の民有林や高知県内の国有林から供給されています。

今年は、高知県の嶺北森林管理署管内の大豊町内の国有林から約6.5トンが調達され令和３年１月13日から架け替え作業が始まり予定通り無事作業が終了し、２月22日に竣工の式典が行われました。

渡り初めの様子

式典は「かずら橋保勝会」の主催で、かずら橋入口で関係者による神事の後、竣工式が行われ、黒川三好市長の祝辞の中で資材の提供について四国森林管理局に対する感謝の言葉などが述べられました。

その後、テープカットを行い、東祖谷在住の谷英二様、峯代様ら３世代の夫婦、祖谷のかずら橋資材確保実行委員会や、施工者のかずら橋保勝会をはじめ関係者が、新しくなったかずら橋の仕上がりや、感触を確かめながら渡り初めが行われました。

林野庁長官賞の授与
（中央：宮田健一氏（三好市））

今回のかずら橋架け替えの取組については、昨年11月林野庁で開催された業務研究発表会において、徳島森林管理署と三好市との共同で、かずらの採取や増殖活動のこれまでの

取組が林野庁長官賞を受賞したことから、当日の式典前に、署長から発表者に賞状の授与を行いました。

現在も新型コロナウイルスの影響により、観光客は減少していますが、「祖谷のかずら橋」は装いも新たに今後の観光客の増加に期待が高まっています。

ニホンジカ捕獲囲いわな「こじゃんと一号」の設置講習会 ～愛媛県今治市～

〈森林技術・支援センター〉

森林技術・支援センターでは、増加するシカ被害防止ため、低コストで設置が容易な小型囲いわな「こじゃんと一号」を開発し、被害が発生している民有林等に普及及び捕獲事業の技術指導を実施しています。この度、愛媛県からの要請で、1月21日に今治市の越智今治森林組合において小型囲いわなの設置講習会を開催しました。

現在、愛媛県では、シカによる森林被害が深刻な地域では、広域かつ計画的な捕獲と効率的な防護等をモデル的に実施し、シカの侵入が危惧される地域では、監視体制の強化を図る取組として、「令和2年度シカによる森林被害緊急対策事業」を実施しており、捕獲による被害対策を早急に実施することとしています。

講義を行う古味企画官

講習会では小型囲いわな「こじゃんと一号」の設置等に関する説明を古味敏光企画官をはじめ当センター職員が、越智今治森林組合、今治猟友会多摩川支部、株式会社野生動物保護管理事務所、愛媛県職員、今治市職員の総勢17名の方に行いました。また、シカの生態・繁殖、四国地域の生息状況、捕獲状況や、シカ捕獲のビデオ等により説明を行い、その後、屋外に出て小型囲いわなの組立方等の設置指導を行いました。

参加者の方々は熱心に講習を受けられ、わなの仕掛け方や安全作業の注意点、餌のまき方やシカが餌に来ているかの食痕など、大変、勉強になったとの声を頂きました。今後についても現場へ出向き指導していくことを確認して講習会を終えました。

わなの仕組を学ぶ受講者の皆さん

仕掛けの取付方を教わる猟友会メンバー

「令和2年度 列状間伐・森林作業道作設現地検討会」を開催しました

〈局資源活用課〉
〈香川森林管理事務所〉

四国森林管理局では、令和元年度から※列状間伐を本格導入し、その普及を進めているところですが、民有林への普及・定着は十分ではありません。また、列状間伐のみならず森林作業道作設技術の向上や地域における作業システムの構築を推進していくことが大きな課題となっています。

このため、1月28日、香川県仲多度郡まんのう町造田柞ノ古（くぬぎのふるばやし）林国有林60林班において、香川県内の自治

体及び林業事業体、四国森林管理局計画課、資源活用課及び香川森林管理事務所から37名が参加し、「令和2年度　列状間伐・森林作業道作設現地検討会」を開催しました。

作業概要等の説明の様子

フェラーバンチャの機能説明の様子

竹内千幸所長の挨拶の後、吉良康資源活用課長から木材需給動向について説明を行い、四国地区内における木材流通の現況、現在のニーズ等について、参加者に理解を深めていただきました。

その後、﨑川龍也森林整備官から列状間伐や森林作業道作設等の概要及び監督・検査ポイントに係る資料説明の後、当該事業地の請負事業体である香川県森林組合連合会の皆様に御協力をいただき、高性能林業機械（フェラーバンチャ）による伐倒作業及び繊維ロープによる集材作業を実演していただきました。

また、作業実演及び現地視察を通じた検討課題について意見交換・質疑応答を行いました。主な質問事項として、「2回目の列状間伐実施におけるポイントは」「森林作業道作設後における維持管理の方法は」などの質問が出され、局・所及び請負事業体の担当者から回答がありました。

最後に、武田義昭森林整備部長から「木材の需給状況、列状間伐及び生産性向上等、内容が盛りだくさんの現地検討会だったと思います。今後、作業効率を高めつつ、どういう山づくりをするか、採算性をどう持っていくかを考えながら作業を進めていただければと思います」との講評があり、ドローンによる集合写真を撮影して、現地検討会を閉会しました。

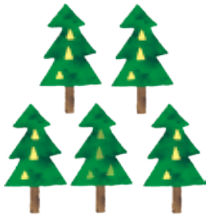
ドローンによる集合写真

ご協力いただいたアンケートでは、「繊維ロープの導入・利活用を検討したい」「森林作業道の作設線形が参考となった」等の意見が出され、有意義かつ民有林支援の一助となったものと考えています。

列状間伐や作業システムの普及においては、地域等の実情により課題も多くありますが、今後とも現地検討会等の開催を通じて、課題解決に向けた取組や技術の普及に努めていきます。

列状間伐による森林整備が進む状況

※列状間伐とは、植栽列や斜面方向等に沿って直線的に一定の列（幅）を決めて伐採する間伐の方法。



ドローンを活用した資材運搬作業の現地検討会を開催

〈安芸森林管理署〉

安芸森林管理署では、当署管内の別役南山（べっちゃくみなみやま）国有林において、造林等作業従事者の労働負担軽減と、作業効率化・低コスト化を図ることを目的に、大型ドローンによる資材（コンテナ苗及びシカ防護ネットの支柱）運搬の現地検討会を、地元の林業事業体「エコアス馬路村」の協力を得て2月3日に開催しました。

当日は、高知県安芸林業事務所、管内市町村、森林組合、森林管理局及び当署職員を含め42名が参加しました。

デモンストレーションの様子

はじめにエコアス馬路村のオペレーターから機材と作業手順の説明を行い、続いて実際に林道端から斜面上部へ資材を運搬するデモンストレーションを見学しました。

その後、飛行可能な回数や機材の価格、気象、地形、積み荷の重さ等の作業条件、飛行習熟のための訓練、導入に向けての国や県からの支援等について質疑・応答が行われました。

今回使用した大型ドローン

参加者から回収したアンケートでは、全体として概ね好評であったほか、資材運搬だけでなく災害対応等でも活用したい、より安価な機材の普及を期待したいといった意見が見られました。

当署としては、このような先進的な取組等について、現地検討会を通じて、地域林業事業体への普及に努めるなど、今後も関係者と連携しながら、ドローンを活用した作業効率化の普及に取り組んでいく考えです。

ニホンジカ食害から森林を守る

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川森林ふれあい推進センターでは、ニホンジカによる樹木への食害や剥皮被害によって裸地化が進んでいた高知県四万十市黒尊山国有林及び愛媛県宇和島市滑床山国有林周辺において、シカ防護ネット柵を設置して、森林再生及び植生回復事業に取り組んでいます。

しかし、シカ防護ネット柵の外では、現在もニホンジカによる樹木の食害や剥皮被害が後を絶たず次代を担う稚樹も育っていないため、平成23年度から委託によるニホンジカ頭数調整事業を実施しています。

本事業は、森林技術・支援センターが開発した小型囲いわな「こじゃんと一号」等を用いて誘引捕獲を行っています。設置する小型囲いわなは、林内にセンサーカメラを取り付けて、ニホンジカの行動観察を行い、設置場所を移動するなどの工夫をしています。

頻繁にニホンジカを目撃

剥皮被害を受けたヒメシャラ

囲いわな周辺のニホンジカ

今後も継続してネット棚の設置や頭数調整を行い、ニホンジカによる森林被害の軽減につながるよう取り組んでいきます。

大月小学校で楽しく作ろうね木工クラフト作り

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川森林ふれあい推進センターでは2月18日、大月町立大月小学校2年生26名を対象に森林環境教育（木工クラフト学習）を実施しました。

はじめに、「森の木に被害を与えている動物を何か知っていますか」と児童達に質問したところ、「クマ、イノシシ、サル、ウサギ、シカ」と元気に返事が返ってきました。

当センターでは、増えすぎたシカの被害から森林を守る仕事や学校に出向いて森林環境教育のお話をしていることなどを話しました。

次に、「今日使う木工クラフト材料のヒノキは、ここの教室の窓からも見えているヒノキの木を板にしたものを使います」と説明し、児童にキットを渡して手触りや匂いを嗅いでもらい、道具と作り方を説明しました。また工作の合間には、いろいろな種類の木の板や角材、集成材、合板、CLTなどのサンプルも観察してもらうことにしました。

いよいよ木工クラフト作りです。お雛様飾りや五月人形飾りが描かれた部品（ヒノキの板を切り抜いたもの）にポスターカラーで自由に色を塗り、ビーズやシールで飾りつけしてから、ヒノキの角材で作った台座に接着剤で付けるというもので、各自、カラフルな着色や装飾をしてお雛様や五月人形の置物を作りました。元のキットは形も下絵も全く同じものでしたが、児童達の発想で変化が加わりユニークな作品が次々と出来上がりました。

最後に、児童の代表から、「木工クラフト作りはとっても楽しかったです」「木にはいろいろな種類があるんだなぁと思ったし、ヒノキの板は新築の家のいい匂いがしました」と感想がありました。

この体験を通して、木の持つ手触りの良さや温もりなど、素材としての木材の良さや作る楽しさについて理解してもらえたものと思います。

木工クラフトを作っている生徒たちの様子

児童の作品

四国森林管理局に勤務して

資源活用課
中岡　正樹

令和2年4月1日付けで、いの町から四国森林管理局に出向し、資源活用課に配属となりました。

林業には、令和元年度の1年間、森林・林業の補助金など、ソフト面を担当する課に所属し、担い手育成や間伐、作業道整備に関する補助を通して林業に携わっていました。

資源活用課では主に販売業務を担当し、システム販売や委託販売の事務を経験させていただいている他、現地検討会への参加や各土場、木材市への出張を通じて、町役場では分かりづらかった、搬出された後の木材の流れを勉強させていただきました。

現地検討会では四国内の様々な山と、それぞれの山に合った施業を試行錯誤しながら実践される姿はとても勉強になりました。なかでも、列状間伐について、かかり木処理発生のリスク低減や、伐倒・集材工程の作業効率がアップすること等のメリットがあると感じました。一方で、列の入れ方などはそれぞれの山を見て判断することが求められることから、担い手の確保・育成が必要であることを再認識しました。

また、民有林で列状間伐を実施する場合には地元住民の方にどのように納得していただくかということも考える必要があります。列状間伐は山に良くない影響を与えるというイメージを持っている方もおいでる中で、メリットを提示するだけで納得していただくことは難しいと考えています。施業方法は山を見ながら決定していくものであり、列状間伐が絶対のものでは無いにせよ、導入をする場合にはどのように説明をしていくのかを考えることが必要だと感じています。

林業を取り巻く状況は厳しい部分もありますが様々な経験をさせていただく中で、林業に対する理解を深めながら、国と町、民間をつなぐ人材となり、川上、川中、川下が連携しながら林業振興を推進できるような活動の一端を担っていければと思います。

列状間伐・作業道作設現地検討会【香川署】
（左から２人目筆者）

監督職員レベルアップ現地検討会
【安芸署】（左から２人目筆者）

現場からの便り

恵まれた雨量と貴重な遺産

安芸森林管理署　野友・北川森林事務所
首席森林官　武内　慈明

野友・北川森林事務所は、高知県東部の安芸郡北川村にあり、室戸市、奈半利町、北川村に所在する国有林・官公造林約4700ha（野友約1700ha、北川約2900ha）を管轄しています。

当森林事務所は首席森林官、地域技術官、森林技術員2名、再任用職員1名の5名で業務を行っています。

また安倉森林事務所と合同の事務所となっており、日々連携をとりながら、現場業務や関係する市町村との窓口、安全衛生に関する業務を行っています。

主な事業としては、立木販売の皆伐や、植付を始めとする造林事業、保育間伐（活用型）までの各種事業を実施しています。当森林事務所が管轄する国有林は、立地条件やアクセスが比較的良好であり、各事業が増加している状況にあります。

一方、植付面積の増加によりニホンジカ防護柵の作設や点検・修理が増々重要となっています。今後、シカ被害をどのように防止していくのかがこれからの課題だと考えられます。

宿屋杉休憩所

当事務所管内の名所として、土佐藩主が江戸時代に参勤交代の際に通行した野根山街道があります。この野根山街道は、ハイキングコースとして多くの方々に親しまれています。特に有名な史跡として、根元の空洞が四畳半ぐらいあり4～5人は泊まることが出来る宿屋杉があります。

残念ながら、昭和9年の室戸台風により倒壊し、現在は根株が残るだけになっています。

森林教室の様子

また野根山街道は、例年は地元小学校の課外授業や森林教室に利用されていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施していません。

今後も、安全に心がけ関係する市町村等とも協力しつつ、「国民の森林・国有林」の保全管理に努めていきたいと考えています。

筆者　左